

パイプシステム通信

No.4

2023年1月

あけましておめでとうございます。
本年も変わらぬご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

2023年の干支は「癸卯（みずのと）」です。十干の10番目にあたる「癸」と、十二支の4番目にあたる「卯」の組み合わせになります。「癸」は雨や露、霧など静かで温かい大地を潤す恵みの水を表し、十干の最後にあたるので、物事の終わりと始まりを意味するそうです。「卯」は春の訪れを感じるという意味があるといわれています。これまでの努力が実を結び、勢いよく成長し、飛躍するような一年になるとよいですね。

パイプシステム通信 編集部

新TVCM 「クボタが描く未来 スマートビレッジ構想」篇

2022年12月3日から2023年1月15日まで弊社の新TVCM「クボタが描く未来スマートビレッジ構想」篇が放映されていました。今回のCMでも恒例の「未来が見える」長澤まさみさん（ブランドパートナー）と、パッキンマックスのパトリック・ハーランさん、皆川猿時さんが、絶妙な掛け合いでクボタの取組を紹介しています。

「豊かな社会と自然の循環にコミットする“命を支えるプラットフォーム”」として、この「スマートビレッジ構想」の実現に向けたソリューションを社会に提供していくことを目指しています。

放映後も弊社ホームページではCMやアフターストーリーがご覧いただけます。



■クボタTVCM
「クボタが描く未来
スマートビレッジ構想」篇

(アフターストーリーもご紹介しています。)

<https://www.kubota.co.jp/kabe/mirai/smartvillage/>



ココに注目!

DXR II 工法

DXR工法とは、「曲線が多い」「道路幅が狭い」等の条件で開削工法・推進工法など従来工法では管路布設ができない場合でも、長距離・急曲線の施工が可能な「DXRシールド」と「PN形ダクタイル鉄管」を組合わせた工法です。

従来のDXR工法は呼び径700～1500のPN形ダクタイル鉄管をシールドさや管内（呼び径1000～2000）に配管していましたが、DXR II 工法では、

口径ダウンのご要望にお応えして、呼び径400～600のPN形ダクタイル鉄管のシールドさや管内への配管を実現しました。当工法では、R=10mまでの急曲線を含む1スパン1000m以上の長距離施工が可能です。また、急曲線でもPN形4m直管が使用可能なため、切管を減らした経済的な配管が可能です。

ご興味ございましたら、どうぞお気軽に各営業担当までお問合せください。



【寄稿】 「業務の可視化」の有効性

愛知県岡崎市水道事業及び下水道事業管理者 伊藤 茂

上下水道事業は、人口減少などによる厳しい事業環境にある中であっても、サービスの維持・向上が求められています。本市では、株式会社クボタの総合管路管理ソリューション提案を活かしたマネジメント計画の策定を進めるなど、部分的にDXを進めていますが、組織全体では進んでないのが現状です。DXが進まないのは、業務の属人化が原因であると分析しています。業務の内容を熟知しているのが当事者だけでは、組織的に対応したくてもできません。そこで、「業務の可視化」に取り組むこととしました。

業務可視化の有効性は、課題の明確化や業務の標準化ができ、他自治体との比較により業務改善が進むことにあります。さらにその先には、BPR（業務改革）や事務の共同化などの広域連携やノウハウの蓄積、内部統制の強化、働き方改革の実現が期待できます。また、業務可視化により生み出された効果は、単なるコスト削減や安易な人員削減につなげるのではなく、

技術の継承や経営感覚を備えた人材の育成、そして本市のアセットマネジメントの定義である上下水道事業のサービスレベルの向上につなげていきます。

もう一つの取組として、市民に向けた上下水道事業年次報告書「サービスレベルレポート」の作成を進めています。消費者である市民と共創、協働して社会価値を高める経営「消費者志向経営」を目指し、今まで以上に住民を巻き込み、われわれの「サポーター」になってもらうための取組を進めます。

「業務の可視化」の先にあるもの

